

退任だより
とどろき

◆ 第104号 ◆
発行所 〒211-0051
川崎市中原区宮内4-1-2
一般財団法人川崎市立学校教職員互助会
退職互助事業室
電 話 044-733-3337 FAX 044-733-9779
<http://www.k-gojo-todoroki.or.jp>
発行日 令和7年1月15日



令和6年度 第4号

目次

★ 第40回 退職互助会員作品展 2・3

★ 第2回 歴史(文学)散歩 4
東原信行先生

★ 第3回 歴史(文学)散歩 5
横山吉雄先生

★ 合同地区会報告
川崎南部・北部地区会 6
県内・県外地区会 7

★ 事務局だより 8

「初冬のさっぽろにて」

写真・説明：小田島 紀美 さん

七度かまどに入れても燃え残るので、この名前がついたと言われるナナカマドは、北国さっぽろの街路樹にもたくさんつかわれています。

白樺とナナカマドの赤と青い空の対比に思わずシャッターを押しました。

雪が降ると真っ白に埋もれた街でナナカマドの赤い実が、道行く人の心を温めます。

令和6(2024)年度 第40回 退職互助会員作品展

●開催期日：令和6年10月18日(金)～11月6日(水) ●会場：会館とどろき 1階ギャラリー

今年の「退職互助会員作品展」は、6つの趣味の会の皆さん【第Ⅰ期 10月18日～10月23日(写真・俳句)、第Ⅱ期 10月24日～10月30日(生花・絵画)、第Ⅲ期 11月1日～11月6日(工芸・編物)】の作品を展示しました。

<みなさんの感想から>

- 素晴らしい作品の数々に、心が洗われたような気がしました。
- 初めて足を運びました。力作ばかりで、それぞれの思いが作品に込められていて、伝わってきました。ありがとうございました。
- 皆様頑張っている感じがしますね。素晴らしい作品を見せて頂き、私も残された一日一日を大切に生きようと思いました。元気を頂きました。益々のご活躍を期待しています。
- 健康診断で伺ったとき、寄せていただきました。絵画もお花も、どれも素敵な作品でした。朝食抜きでバリウムを行い、ぐったりした気分でしたが、静かな空間でゆっくり拝見できてとても癒されました。季節を感じるお花、ずっと見ていたい気分でした。思いがけない時間となり、よかったです。ありがとうございました。

第Ⅰ期 10月18日～10月23日(写真・俳句)の部



【写真の部の皆さん】



【俳句の部の皆さん】



第Ⅱ期 10月24日～10月30日 (生け花・絵画) の部



【生け花の部の皆さん】



【絵画の部の皆さん】



第Ⅲ期 11月1日～11月6日 (工芸・編物) の部



【工芸・編物の部の皆さん】



「世界一の本の街」神田神保町を訪ねて

講師：東原信行先生

《見学コース》

東京メトロ
千代田線
「新御茶ノ水駅」
集合



「東京
古書会館」

「明治大学
博物館」



「靖国通り
沿い
神田神保町
本屋街」



「日本野球
発祥の地」

「学士会館」

「如水会館」



「毎日新聞社
屋上」

★本の街、学生の街を訪ねて



集合場所
の新御茶ノ
水駅から神
保町へ向か
って歩いて
いくと何か
懐かしさを感じます。
本の街、学

生の街が若き日を思い出させるのでしょうか。参加者の皆さんは、それぞれの学生時代を思い出しながら、歴史(文学)散歩を楽しんでいたように思いました。

本の街、古書の街、そしてカレーの街として有名な神保町。靖国通りを駿河台下交差点から西に向かうと、130店以上の古書店が立ち並んでいます。

★明治大学博物館の見学



明治大学博物館では、連続テレビ小説「虎に翼」の特別展示が開催中でした。参加された皆さんは、番組の小道具や衣装、パネルを見学して日本初の女性弁護士になった三淵嘉子さんを身近に感じていたようです。

★「東京古書会館」で神保町の歴史を学ぶ



東京古書会館は、古書のセリを行う場所でもあり、セリが開催されている日は、会場に入りきれない

ほど多くの方が訪れます。

今回は、古書会館の方に神保町の歴史について話をいただきました。武家屋敷が立ち並んでいた江戸時代から明治時代になり帝国大学



(現：東京大学)、明治法律学校(現：明治大学)など多くの学校がこの地域に創立され、あわせて書店街が発展してきたそうです。火災や震災にも見舞われましたが、地元和学校と連携しながら世界一の本の街となっていきました。また、神保

町の書店街の特徴として、一つのジャンルを専門的に扱う店が多くあります。街一番の老舗、明治8年創業の「高山本店」は、能、歌舞伎、武道などに特化し、作家、司馬遼太郎も資料集めを同店に任せたとのことでした。映画や演劇、戯曲の古書を扱う「矢口書店」、英米文学の洋書を扱う「北沢書店」は、美しい書齋のようでした。「大屋書房」には、教科書でしか見たことのないような「解体新書」が置いてありました。「解体新書」はちなみに400万円でした。参加者の皆さんは、改めて神田神保町について知ることができ、話を聞いた後は興味のある書店に立ち寄り、趣味の世界を満喫できたのではないのでしょうか。

★毎日新聞社の屋上から



見学の最後は、書店街を後にして毎日新聞社の屋上へ行きました。屋上からは真下に平川門が見え、

大手町のビル群が皇居の向こう側に見えました。屋上から見える景色とともに心も広がったように感じました。

様々なことがデジタル化される現代、時代の変化について行かなければと思いつつ、神保町の歴史(文学)散歩は、懐かしさと温かさを感じる散歩になりました。参加者の皆様ご苦労様でした。

文責：事務局

「祝 川崎市制100年」

～ 工都発祥の地と川崎市役所新庁舎を訪ねて ～

講師：横山 吉雄 先生

《見学コース》

JR南武線
「川崎駅」集合

「工都発祥の
地を巡る」

ラゾーナ川崎
プラザ

女躰神社

ソリッド
スクエア



京浜急行
大師線
「港町駅」から

川崎河港
水門

徳泉寺



「新装なった
川崎市役所
本庁舎」

東海道
かわさき宿
交流館

川崎市役所
新庁舎

午前9時15分、川崎駅改札口時計台前に参加者がそろいました。気候の変化などで体調が整わず欠席もありましたが、18名の参加者と講師はじめ互助会担当を含め23名で青空のもと、スタートしました。

★「工都発祥の地を巡る」



川崎の発展には、初代川崎市長の石井泰助氏の功績が大きかったです。大正末期の上下水道の建設や、道路整備、多摩川治水、そして、現在の「ラゾーナ川崎」周辺の30,000坪もの土地への工場誘致が大きく、「横浜精糖(明治製菓)」、「東京電機(東芝)」などの工場が、進出しました。



横山先生から、工場誘致のため加瀬山の一部を崩し、約4.2mの盛り土をして広い土地を安く提供したとの話に驚きました。

ラゾーナ川崎近くにある「女躰神社(ニョタイジンジャ)」は、住民たちがたびたびの水害に悩まされ、氾濫を鎮めるために身を投じた女性が祀られているそうです。

★「港町駅」から



次に向かったのは、京急大師線で1駅「港町」駅です。ここは「日本コロンビア川崎工場」のあったところです。改札を出ると、美空ひばりさんと「港町十三番地」の碑がありました。

川崎の発展には、初代川崎市長の石井泰助氏の功績が大きかったです。大正末期の上下水道の建設や、道路整備、多摩川治水、そして、現在の「ラゾーナ川崎」周辺の30,000坪もの土地への工場誘致が大きく、「横浜精糖(明治製菓)」、「東京電機(東芝)」などの工場が、進出しました。

横山先生から、工場誘致のため加瀬山の一部を崩し、約4.2mの盛り土をして広い土地を安く提供したとの話に驚きました。

次に向かったのは、京急大師線で1駅「港町」駅です。ここは「日本コロンビア川崎工場」のあったところです。改札を出ると、美空ひばりさんと「港町十三番地」の碑がありました。

「川崎河港水門(カワサキカコウスイモン)」、多摩川は古くは江戸城建設の頃から水運に利用されてきました。将来の工業都市川崎としての発展に備えるため、運河・港湾計画が立てられ、その一環として「川崎河港水門」の建設が始まりました。しかし社会情勢の変化から1943年3月に計画が廃止となり、幻の大運河計画となってしまいました。この水門の貴重性から、1998年に国の登録有形文化財(建造物)となりました。この建設にあたっては、「鈴木商店(味の素)」が多額の寄付を行いました。

石井泰助氏は、今日の川崎市の基盤を作り上げた功労者です。1924年に川崎町・大師町・御幸村が合併して誕生した川崎市(当時人口5万人)の初代市長となりました。その墓所が「徳泉寺」にあります。この近くには、大正昭和初期東洋一の大工場、「えんとつ男事件」で有名であった「富士瓦斯紡績」や戦後復興に大きく貢献した「川崎競馬場」がこの近くにあります。

2013年に開館した「東海道かわさき宿交流館」、歴史、文化を学び、それを後世に伝え、地域活動・地域交流拠点となることを目指して作られた施設です。



★「新装なった川崎市役所本庁舎」



昨年新装なった「川崎市役所本庁舎」は、地下2階、地上25階建て、高さ111mの超高層ビルです。今回の企画では、25階のスカイデッキから発展した川崎南部地区の様子を眺めました。晴れてはいましたが、ガスがかかり富士山を見ることは出来ませんでした。90代を筆頭に元気な健脚の皆さんが集まり、たくさんの笑顔と横山先生の詳しく軽妙なお話に笑いの絶えない時間となりました。

文責：事務局

川崎南部地区 (川崎・幸・中原)

「日暮里・谷中ぶらり散歩」

2024年10月13日開催 講師：土澤 稔先生 報告者：原 伸子さん

10月13日(日)、日暮里の改札口を出て、散歩日和の中、広い谷中霊園を横に見ながら、7人で朝倉彫塑館に向かいました。

朝倉文夫氏の住居兼アトリエとして作られ、屋上庭園まで自ら設計に携わったという館は、おもしろさがいっぱい詰まっていました。「猫」をテーマにした特別展が開催されていて、たくさんの表情姿態の猫の彫塑に魅了され時間を忘れてしまうほどでした。

この後、山岡鉄舟が明治維新で殉じた人々の菩提を弔い創建した「全生庵」、江戸時代に鈴木晴信の美人画に登場する笠森お仙の碑のある「大円寺」を見学しました。この地域は、お寺がたくさん見られました。明暦の大火以降に焼け出された多くの寺院が移転してきて、このような寺町になったということでした。

また、この通り道に江戸時代に築造された「築地堀(国定有形文化財の土堀)」や、江戸後期・明治・大正の特徴を残す情緒ある建物など、個人で来たら見過ごしてしまう場所にも目を向け丁寧に教えていただきました。

「大名時計博物館」では、貴重な時計を見学し、江戸時代の時刻制度など教えていただきました。幅広い層の人形を巧みに作成し実演する「指人形館笑吉」前を通り、レトロな町並みの「谷中銀座」や「夕焼けだんだん」と呼ばれる階段を見学しました。映画「君の名は」や各種のドラマのロケ地となった階段で、ドラマの主人公になった気分させてくれます。人気なわけが納得でき、充実した一日でした。



川崎北部地区 (高津・宮前・多摩・麻生)

「橋樹郡衙と古東海道を訪ねて」

2024年11月8日開催 案内人：掛井 孝明先生 報告者：篠宮 敏さん

橋樹郡シリーズ第3弾の今回のメインは、飛鳥時代に創設された家(ぐうけ、郡衙)遺跡と、同時代創建の影向寺遺跡の2つから構成される「国史跡・橋樹官衙遺跡群」です。当日は、川崎市教育委員会が毎年実施している「指定文化財等現地特別公開事業」の初日にあたり、影向寺が公開されていました。終了10分前に飛び込んだ一行11人は、ボランティアさんの解説を聞くことができました。本尊の木造薬師如来および両脇侍像(日光・月光菩薩)は平安時代後期の作で、一木造のがっしりとした体型の和様彫刻。3体セットで国の重文指定を受けています。

次に、今年6月にオープンした橋樹歴史公園にある復元倉庫群を見学しました。大宝律令(701年)以前の倉庫復元は全国初だそうです。穀物倉庫としての正倉は、高さ9m、付近の2階建て住宅を圧倒する迫力がありました。

もう1つのメインは古東海道。平城京から延びる官道には30里(約16km)毎に駅が置かれ、役人や使者に

換えの馬や食料を提供しました。その駅の1つ小高駅(おだかのうまや)の場所は確定していませんが、一行は夕暮れの新作小学校近くの小高台に立ち、古代の馬の放牧地を想像することができました。

千年から新作にかけての丘陵が往時の橋樹郡の中心地であったことは確かで、川崎市民として誇れる歴史の舞台を訪れることができ良かったと思います。



県内地区 「西馬込文士村界限そぞろ歩き」

2024年10月30日開催 案内人：石田 彰一 先生 報告者：椿 道雄さん

10月30日、県内地区会は12名の参加を得て実施されました。テーマ 秋の西馬込散策「西馬込文士村界限そぞろ歩き」にある馬込文士村とは、大正後期から昭和初期に、尾崎士郎や宇野千代の誘いで旧馬込村を中心に多くの文士達に移り、最盛期には、約100名が住んでいた名称です。今回見学した主な施設とその概要は次のとおりです。

郷土博物館・・・3階には、文士村に居住していた文士達の居住地、小説家尾崎士郎や川端康成等の写真・著作物・直筆原稿・書簡、画家伊東深水や彫刻家佐藤朝山の作品が展示されています。

2階には、常設展として大昔の大田区の貝塚・土器・古墳等の紹介がされ、また、当日は、特別展として、縄文、古墳時代から現代にいたる矢じり、弓矢が展示されています。

熊谷恒子記念館・・・熊谷恒子は、昭和期の女性かな書の第一人者として活躍しました。記念館には、「土佐日記(初巻)」をはじめ、恒子の品格が表現された書が紹介されています。

天祖神社・・・大森駅前にある天祖神社の脇階段には、馬込文士村の住民であった43名の文士達の似顔絵と、その名前等が明記されたレリーフが並んでいます。

集合時には降っていた霧雨は直ぐに止み、秋晴れの下、ほとんど知られていなかった馬込文士村の概要と、文士達の熱き思いに触れることができ、心温まる半日を過ごすことができました。



県外地区 「新紙幣の偉人 北里柴三郎博士ゆかりの白金を訪ねて」

2024年11月8日開催 案内人：栗林 昌人 先生 報告者：大井 澄子さん

急に冬がやってきている中、この日は穏やかに青空が広がっていました。白金高輪に10名の参加者が集まり、栗林先生を先頭に出発しました。

まず最初に、今回の1,000円札のモデルとなった「北里柴三郎記念博物館」に行きました。住宅地の閑静な街の中に北里大学と博物館がありました。中には「AA000003AA」の1,000円札が陳列されていました。「AA000002AA」が、神奈川県に保管されていると聞き驚きました。

次の「東京大学医科学研究所」は、レストランに併設されとってもいい匂い。そこで、破傷風菌やペスト菌の発見に大きな功績をあげた北里柴三郎博士らの研究について知ることが出来ました。1941年「国立伝染病研究所」が内務省から文部省に移管されたことを機に、総辞職し北里研究所を創立したことを知り、また驚きました。

最後は「港区立郷土博物館」です。ここは、「東京大学医科学研究所」の隣にあり、1938年に竣工された「旧公衆衛生所」を2009年に港区が取得「ゆかしの杜」の名称で開館されたものです。スクラッチタイルで覆

われたゴシック調の外観も素敵でしたが、入り口を入るとすぐに2階中央ホールがあり、吹き抜けや、白黒の床、薄紅色の壁面、天井の漆喰レリーフなど華やかな空間が広がり、魅了されてしまいました。室内では、アニバーサリーラリーに参加し、童心にかえっていくもの場所を巡りました。

ほかほかとした秋の1日、ゆったりと楽しく過ごすことが出来ました。講師の栗林先生、参加された皆さん、ありがとうございました。



令和7年度 歴史(文学)散歩

●「開港当時の横浜を偲ぶ」5月



横浜港開港当時の象徴的な建物、開港記念会館(ジャックの塔)横浜税関(ウィーンの塔)、神奈川県庁(キングの塔)などを巡ります。

●「田端の文士村を訪ねて」

—田端に生きた文化人—



芥川龍之介、正岡子規、太田蜀山人などの文士を探ります。

●「池上の歴史を探る」

—六郷用水に沿って池上本門寺—



川崎と縁の深い池上の地を歩き、池上の歴史と産業を訪ねます。

哀 悼

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

《最終所属》

- 濱川 浩 様 (71歳) 令和 2年 2月 3日 《御幸中》
- 河田 和子 様 (90歳) 令和 6年 2月28日 《高津中》
- 望月 利久 様 (94歳) 令和 6年 4月27日 《東小倉小》
- 川邊信一郎 様 (93歳) 令和 6年 5月31日 《御幸小》
- 関 主 様 (80歳) 令和 6年 6月11日 《日吉小》
- 伊藤 右 様 (93歳) 令和 6年 6月13日 《南大師中》
- 井上 利光 様 (94歳) 令和 6年 6月25日 《宮前平小》
- 山下スミエ 様 (86歳) 令和 6年 6月28日 《向小》
- 奥平 忠 様 (72歳) 令和 6年 7月 1日 《川崎中》
- 池田 静子 様 (87歳) 令和 6年 7月 6日 《白山小》
- 渡辺 勉 様 (91歳) 令和 6年 7月20日 《高津高》
- 松本 光雄 様 (94歳) 令和 6年 8月 7日 《田島養護》
- 笹田 京子 様 (93歳) 令和 6年 8月 9日 《下作延小》
- 渡辺 和夫 様 (81歳) 令和 6年 9月 8日 《犬蔵中》
- 宇賀 碧 様 (96歳) 令和 6年 9月18日 《鷺沼小》
- 福永 熱子 様 (97歳) 令和 6年 9月18日 《久地小》
- 森 繁 様 (90歳) 令和 6年 9月26日 《中原中》
- 菅井 芳郎 様 (95歳) 令和 6年10月21日 《宿河原小》
- 小笠原諄吉 様 (95歳) 令和 6年11月 8日 《三田小》
- 森田 博嗣 様 (93歳) 令和 6年11月16日 《生田中》
- 小酒井英一 様 (71歳) 令和 6年11月23日 《高津高》
- 中田 稔 様 (93歳) 令和 6年11月27日 《百合丘小》

皆さんがあまり見ない、互助会をWatch！



会館とどろきを等々力球場側から見ました。左から5月の春(つつじ)、6月の初夏(シロツメクサ)、そして12月の初冬(銀杏)の頃です。